

不登校の原因を考える ⑤

本人にもはっきりとわからないことが多い不登校の「原因」。その原因を突き詰めていくと、学校の酸素が少なくなっている事が原因であると思います。

■原因は「わからない」

かつて不登校だった青年に「なぜ、不登校になったの？原因は何？」とふりかえってもらっても、「実は、よくわからないんです。」と答える人が多いです。いじめがあったからなのか。担任の先生が必要以上に厳しかったからなのか。家の状況が厳しくて、学校に行く元気がでなかったからなのか。友だち関係で悩んだからなのか…本人にもよく分からないようです。中学2年生の時に不登校をしていたアカネは、手記の中で次のように不登校の原因を述べています。

「(前半省略) いじめ等の具体的な理由はなく、なんとなく教室に行けなかったのです。ちょっとした嫌がらせはあったのですが、それが理由だとは思えません。だから、なぜ教室に行くことができなかったのかは、今になっても私にもわかりません。私かわからないのに、『他の人にわかってくれ』というのは無理な話で、周りの人から怠けていると言われてもしょうがない状況でした。(後は省略)」

アカネは怠けていたのでしょうか。甘えていたのでしょうか。自己肯定感が育っていなかったのでしょうか。

■危うい子どもの状況

原因はわからなくても、不登校の「きっかけ」

は答えてくれる子どもはいます。「中学生の時、女子の陰口で傷ついて、頑張って、頑張って学校に行こうとしたけど、やがて行けなくなりました。」「なまじっか成績が良くて…疲れました。」「宿題をすることができなくて、ウソをついてしまったら、そのウソがばれて…。」「頑張ればできるんだからと言われて、努力をしたけど…疲れました。」「仲の良かった友だちとケンカをして…その友だちとの関係が悪くなって…」

親や教師からすれば、「そんなことくらいで…」と思うかもしれませんが、子どもが危ういギリギリの状況の中で生活をしていることがうかがえます。がんばって、がんばって、がんばって…頑張りぬいて学校生活を送っていますが、何かのきっかけでそのびーんと張り詰めた糸がブツンと切れてしまうのが不登校であると捉えることができます。例えるならば、酸素の少ない水槽で必死に息をしながら泳いでいるメダカ？ だから、どの子どももきっかけがあると、不登校をしなくては生きていけなくなるのではないのでしょうか。

■先生の笑顔が…

昔の学校も「頑張る所」でした。しかし、緊張をゆるめる楽しい世界がありました。休み時間の遊び、先生の脱線授業、誕生会、お楽しみ会、1時間完結ではなかったかもしれないけど個性のある授業、放課後の教室のおしゃべり、先生と一緒に過ごす休み時間…。なにより、先生が忙しい中にも元気で笑顔がありました。(無いように見える先生もその人なりに)

今の学校は、子どもたちだけが息苦しいのではありません。先生たちも「パソコンの仕事」や「数値目標を達成するための仕事」や「意味があると実感できない仕事」におわれてしまい、ストレス

がたまり心がつかれています。「これまでに無かった新しい仕事を覚えるのが大変で、データをまとめる仕事が多くて、子どもの心を聴こうとしてない自分が嫌になります。」と自分を責めていた養護の先生。「道徳の授業の評価の根拠をはっきりさせないといけないのかもしれないけど、そこまでして道徳をするよりも、教室のトラブルを子どもたちと一緒に考える時間の方がよっぽど子どもの成長につながるのに…」と嘆いてた年配の先生。「学力、学力って、点数を上げることがそんなに大切なのかなあ。」と疑問を持っていた30代の先生。「悩みを相談したくてもそんなことはできないですよ。だって、みなさん、とっても忙しそうだから。」と自己責任の重圧で押しつぶされそうになっていた若い先生。

一方、その学校に様々な指導と支援をしている教育委員会はどうかという、同じようにたくさんの方に追われています。「どうして、教育委員会ってあんなに忙しいんですか」と聞くと「学校教育ってひき算をしないで、たし算なんです。何かを始めるのなら、何かをやめないといけないのに。それがむずかしい(思い切ってできない)のが学校教育です。なるべく学校に負担をかけないようにしてはいましたけど…」と、かつて教育委員会で仕事に携わっていた方が言っていました。

国は「教育機会確保法」を決めて、「全ての子どもにとって魅力ある学校づくり、安心できる学校づくりを目指さなくてはならない」と言いました。それを実現するためには、「学力テスト」を目的に添った形に縮小したり、分厚い学習指導要領であれこれ言うのをやめる…教育委員会と学校の仕事を「ひき算」しなくては、「絵に描いた餅」となってしまいます。

hannah* (ハンナさん) コンサート

ハンナさんは、不登校を経験した青年です。今、シンガーソングライターとして、大分を中心に活動しています。

FRIDAY ACOUSTIC NIGHT ~ Play The Christmas 2018

日時：12月21日(金) START20:00 料金：¥1500円(1ドリンク付)
場所：music house カンタループ2 (大分市都町3-2-30 中山第5ビル大分6F)
問い合わせ：加嶋 (080-2717-9392)

1月の例会予定

- 昼の大分例会…1月5日(土)13:00~16:30
- 別府例会…1月5日(土)19:00~21:30
- 豊後大野例会…1月10日(木)19:00~21:30
- 津久見例会…1月11日(金)19:30~22:00
- 夜の大分例会…1月18日(金)19:00~21:30
- 湯布院例会…1月24日(木)19:30~21:30

会報発送のボランティアを募集しています。協力していただける方は河野さんまで連絡をください。

①直接購入は11月30日まで

世話人からの購入、例会や講演会等での購入は11月30日で締め切ります。その後は、電話での申し込みとなりますが、その電話での申し込みも12月10日で終わりです。当日券の販売はあっても、枚数が少なくなることが考えられます。講演会に参加をしようと考えている会員の皆さんは、必ずチケットをお求めください。

②講演会の打ち上げ&忘年会

日時：12月16日(日)18:00~
場所：かんてきや(大分駅北口バス停前)
会費：3,500円(飲み放題付き)
定員：30人
申し込み：宮崎(090-3624-3899)
申し込みの締切…11月30日(金)

会報発送作業

- 日時：12月25日(火)14:00~
- 場所：明治明野公民館和室2
- お尋ねは河野さん(080-5272-9360)まで

おねがい

原稿をお寄せ下さい

- 感想・体験 ●伝えたい情報
- その他不登校に関すること
- <メール>toiawase@hoshinokai.net
- <FAX> 097-576-9489

原稿は、FAXかメールでお寄せ下さい。掲載の際に匿名・インシヤルなど希望する場合は、そのことを書き添えて下さい。

ご寄付のお願い

活動を継続・発展させていくために寄付や切手等の寄贈をお願いしています。力をかけて下さい。尚、寄付・寄贈していただいた方は会報郵便振替で紹介させていただきます。

郵便振替

<口座記号番号> 01710-8-142651
<加入者名> 不登校を考える星の会